

宮中晩餐における

グスタフ国王陛下の御答辞（訳文）

（2007年3月26日）

天皇皇后両陛下、

本日、王妃や、随行の閣僚2名、そして多数の代表団員とともに、貴国への私の2回目の公式訪問を始めることが出来ますことを心からうれしく思います。両陛下のご歓待に、深く感謝いたします。

今朝、皇居で行われました華麗な歓迎式典は、今上陛下のご父君、昭和天皇陛下の御世であった1980年に、私たちがはじめて日本を公式訪問した折のことを思い出させてくれました。今再び、この静寂で平和に満ちた宮殿を訪ねることが出来たのは、この上なく名誉なことでもあります。

王妃と私は日本に戻ります度に、興味と好奇心を共有してまいりました。そして私たちは、幸運にも幾たびも貴国を訪問しております。私自身は、世界スカウト財団のイベントや、技術発展視察のための王立技術使節団などで、数回日本を訪れております。王妃も、子供の権利に関するいくつかの重要な会議出席のために、まいりました。

『美しい国』とは、1962年に出版されたスウェーデンの作家、ステン・バーグマンの日本に関する有名な著作の題名です。王妃と私は日本各地を訪ねましたが、この題名は、今もなお日本を適切に描写する言葉といえましょう。私も1991年に箱根を訪問したときの、鮮明な思い出を持っております。数十年前に、祖父グスタフ6世アドルフが投宿した富士屋ホテルに、私たちも滞在いたしました。箱根の山麓に建つ古い木造建築の、何と美しかったことでしょう。

しかし、日本はただ美しいだけなのではありません。バーグマンがその著作を記したのは、日本が驚くべき経済発展を遂げつつある時代でしたが、その後貴国は世界でも有数の経済大国としての地位を確立されました。これから数日間の滞在中に私たちは、日本経済の活力と創造性の例をいくつも見ることになるでしょう。

世界で最も古い君主制の強固な伝統と深遠な歴史は、日本の現代的なダイナミズムと共に生きています。まさに実り多き、すばらしい共存といえるでしょう。私と王妃だけでなく、日本を訪問した私たちの家族は皆、これを目の当たりにしております。私たちの最年長の娘、ヴィクトリア皇太子はすでに数回貴国を訪問しておりますし、息子のカール・フィリップ王子も昨秋、カール・リンネに

ついでに映画制作に関連して、短い間でしたが東京を訪問することが出来ました。私の姉、デジレー王女やクリスティーナ王女もそれぞれ、この素晴らしい国を訪ねた折の特別な思い出を持っております。

日本とスウェーデンは、地理的には遠い距離にありますが、両国の信頼関係は強固であります。私たちの国々は、すでに 1868 年に外交関係を樹立しています。

日本・スウェーデン両国の間では、経済、科学、ヘルスケア・サービス、デザイン、音楽、芸術、文学など、あらゆる分野において、幅広い交流が行われております。数多くのスウェーデン企業が、長年にわたって日本で活動しておりますし、さらに多くの新しい企業が貴国に参入しようとしています。自動車産業や情報技術分野においても、有益な協力関係が確立しています。

北海道には、典型的なスウェーデン住宅などを展示している、スウェーデン交流センターという文化センターがあります。旭川市は、私自身参加したこともある、ヴァーサ・スキー競争という、レースを毎年開催しています。様々なスタイルや大きさのスウェーデンからの輸入木造住宅が、日本では人気を博しております。

両陛下が私の在位中すでに 2 度にわたってスウェーデンをご来訪になったことも、特筆すべきことです。最初のご訪問は 1985 年、両陛下がまだ皇太子殿下・同妃殿下であられたときであり、2000 年 5 月には、国賓としてご訪問になりました。

2004 年には、スウェーデンの前首相が日本を訪問し、昨年は小泉前総理が我が国に来訪され、高く評価されました。

今からわずか 2 ヶ月後には、スウェーデンの最も偉大で世界的にも卓越した科学者、カール・リンネ生誕 300 周年祝典のために、両陛下をストックホルムとウプサラにお迎えできますことは、私どもの喜びとするところであります。

天皇皇后両陛下は、リンネと彼の植物学に関して大変なご見識をお持ちです。明日、ここ東京の国立科学博物館において、リンネの先駆的業績、『自然の体系』の原本が公開されます。この原本がスウェーデン国外に出るのを許されたのは、今回が初めてのことです。両陛下にこれをお見せすることが出来るのを、この上なく嬉しく思います。

王妃と私は、今週長崎も訪問いたしますが、彼の地では、リンネの弟子であったカール・ペーター・ツェンペリーが 1775 年に初めて日本に到着した場所を訪れる機会もあるでしょう。ツェンペリーは、スウェーデン人の日本に関する

知識に多大な影響を与えましたし、両国間の最初の文化的交流を担った一人でもあったのです。

スウェーデンには、日本に対する多大な興味と、日本文化やライフ・スタイルに関する明らかな好奇心が存在しています。私自身は、日本の刀文化に魅了されています。数年前、日本の刀匠を訪問したときの感激を忘れることが出来ません。日本のグラフィック・アート、デザイン、日本食、そして最近ではマンガやアニメが我が国において絶大な成功を収めており、以前にも増して多くのスウェーデンの若者が日本語を学んでいます。そして幾つかの組織が、両国間の交流を促進する活動を行っております。

つまり、『美しい国』は今日も私たちを魅了し、惹き続けているのです。日本文化の持つ、時間を超越した調和感が、その魅力の一因であることに相違ないでしょう。同時に、日本とスウェーデン両国間における、経済、産業、科学技術の分野での一層深い相互協力への展望が、インスピレーションを喚起し、また様々な分野・レベルでの関係をさらに進展させたいとの願望を生み出しているのです。

日本とスウェーデンは、両国とも確固とした民主主義国家であり、また高度に発達した市場経済であります。それだけでなく、我々両国は共に、知識とイノベーションを基盤とする社会でもあります。

日本とスウェーデンは研究開発、保健衛生や老人介護、エネルギーや環境問題などを含む様々な分野において、相互に学びあうことが出来ると確信しています。今回の訪問に先立って私は、我々世界の未来のエネルギー供給の課題に関する貴国の見解について、特に理解を深めたいと思い、そのような機会を求めました。我々が共に手を携えることは、今日の世界的な課題への適切な取り組み方を見つけるのに貢献することになりましょう。

ここに共に杯を挙げて、天皇皇后両陛下および皇室の方がたの繁栄を希い、日本・スウェーデン両国の協調と両国民の友情を祝したいと思います。

スコール！（乾杯！）